

中間評価報告書

令和7年9月5日（金）

研究種別	一般研究	
研究課題名	富士の介等マス類養殖技術の効率化に関する研究	
研究期間	令和5年度～令和9年度	
	評価点	
1	研究計画の進捗度及び今後の研究計画の妥当性	4.3
<p>〔評価所見〕</p> <p>各項目とも計画どおりまたは計画を上回る進捗状況である。特に富士の介のIHN感染特性について、これまで知見のなかったスマルトとの関連性を示唆する重要な成果が得られており、養殖場におけるIHN対策の進展が期待される。</p> <p>今後の計画について、富士の介親魚となるマスノスケの優良成長系統の選抜、間欠給餌等による効率的な給餌による飼料コスト削減が期待できる内容である。</p> <p>今後も目標達成に向けて研究を推進し、養殖業者へ具体的な対策や収益性の向上を示すことができるよう、さらなる研究の成果に期待する。</p>		